

(様式第1号)

平成24年度 第2回 芦屋市健康増進・食育推進計画策定委員会  
会議録

日 時	平成24年7月10日(火) 午後13時30分～
場 所	芦屋市保健福祉センター
出席者	委員長 立花 久大(兵庫医科大学病院教授) 副委員長 野田 京子(芦屋栄養士会 会長) 委員 溝井 康雄(芦屋市歯科医師会 監事) 進藤 昌子(芦屋市民生児童委員協議会副会長) 里村 喜好(芦屋市社会福祉協議会常務理事兼事務局長) 上坂 泰代(芦屋いずみ会 会長) 福永 公子(芦屋市老人クラブ連合会 副会長) 波多野 正和(芦屋市商工会 事務局長) 岡野 東子 北野 章(教育委員会学校教育課長) 津村 直行(保健福祉部参事)  欠席：美濃委員に代わって吉井保健師が出席  事務局 北口 泰弘(保健福祉部健康課長) 瀬戸山 敏子(保健福祉部主幹(保健担当課長)) 田中 佐代子(保健福祉部健康課主査) 山田 映井子(保健福祉部健康課技師) 辻 彩(保健福祉部健康課技師)
事務局	保健福祉部健康課
会議の公開	公開
傍聴者数	0人

1 開会

2 議事

- (1) 健康づくりと食育についての市民意識調査結果について  
3歳児健康診査時のアンケート調査【資料1】
- (2) 現行計画の達成状況について
- (3) 関係各課のヒヤリング結果について
- (4) その他

【事務局北口】定刻になりましたので、第2回芦屋市健康増進・食育推進計画策定委員会を開催させていただきます。委員の皆さまにはお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。

本日は、須山委員と岡野委員からはご連絡をいただいておりますので、遅れて

来られるかと思えます。美濃委員と土居委員からは欠席のご連絡をいただいております。また、本日は美濃委員に代わりまして、芦屋健康福祉事務所から吉井保健師が来ていただいております。よろしくお願いいたします。

(配布資料の確認)

【立花委員長】それでは議事に入ります。

(1)健康づくりと食育についての市民意識調査結果について、また(2)現行計画の達成状況について、資料にしたがって事務局から説明をお願いします。

【事務局瀬戸山】(健康づくりと食育についての市民意識調査結果について説明)

【立花委員長】ありがとうございました。全体を通じてご意見ご質問はありませんか。

【野田副委員長】2ページ(1)に性別や年齢別の割合が出ていますが、前回の割合はどうだったのでしょうか。この割合が異なると比較できないような気がします。

【事務局瀬戸山】無作為抽出のしかたは、大差ありません。

【岡野委員】目標値というものは、どういうことを基準に決めておられますか。また、5ページ目では「以上」という字が間違っていないですか。

【事務局瀬戸山】「以上」の字は違っています。目標値に関して、前回は策定委員会で決めました。

【岡野委員】それは各自の思いだけで決めたということですか。

【事務局瀬戸山】各自というより策定委員会の思いということで、微妙なところがあります。例えば、がん検診なども国で50%という目標値をたてておりますので、そのような値になっています。

【岡野委員】難しい言葉と生活に必要なものがあると思えます。生活に必要なものは高くしておいていただきたいですし、マイナーな言葉に関しては低くするというようになってくるかと思えます。

【事務局瀬戸山】この計画は健康増進・食育推進計画ですので、目標は健康長寿です。元気でいつまでも暮らすということですので、それに向けて、この策定委員会で決めていただくということです。

【岡野委員】がん検診などは高い方がいいですね。

【事務局瀬戸山】早期発見、早期治療すれば、早く治る可能性が高いということです。

【立花委員長】他にはございませんか。

では次の(3)関係各課のヒヤリング結果について、事務局から説明をお願いします。

【事務局瀬戸山】(現行計画の達成状況について説明)

【立花委員長】ありがとうございました。ただ今のご説明に関して、ご意見ご質問はございますか。

【里村委員】この評価は諸団体の自己評価ということですか。

【事務局瀬戸山】そうです。

【里村委員】その評価の基準がここに書いてあるということで、例えば方向性通りに実施できたということであればAだということですね。

【北野委員】5年後に向けた方向性は、斜線や空欄がCのところがありますが、この項目は今後消えていくということですか。

【事務局瀬戸山】そうです。

【北野委員】例えば阪神南青少年タバコ対策事業は事業そのものがなく、Cですが、今度、防煙教育の強化ということでの項目が、新たに立ち上がってくるということですか。

か。

【事務局瀬戸山】そういうことです。

【津村委員】その部分について、家庭における性教育実施の啓発活動というものがありますが、これはもともと、青少年愛護センターが自ら担当するという出された事業内容だと理解すればよろしいですか。このような啓発活動の取り組みは、愛護センターが担うという目標なのですか。

【事務局瀬戸山】そのように次世代育成支援行動計画に盛り込まれていて、そのまま「すこやか親子」のところに落とし込んだということです。直接、愛護センター側からやりますという感じではないと聞いております。

【津村委員】こういうことは社会教育の公民館事業でやっていた内容かと思えます。もともと、この取り組みは、幼児教育学級とか教育の問題講座とかいうものの中で行われていたものだと認識していましたが、そのような設定はなかったですか。

【事務局瀬戸山】学校では学年別にしっかりとした目標をたてて教育しておりますが、保護者がそれをご存じないということもあり、家庭での教育について戸惑いがあるのだと思います。そのあたりを解決したいということです。

【津村委員】それは社会教育だと思います。

【進藤委員】いきいき暮らす元気計画の2ページ目の5年後に向けた方向性で、アルコール依存症の家族会というものがありますが、他のものはほとんど継続する中で、これだけが「側面支援は独立」ということですが、これは自主グループなので側面的に支援するということですか。

【事務局瀬戸山】自主グループということなので、側面的に支援するということです。

【立花委員長】他にご意見等はありませんか。

では、(4)その他について、事務局から説明をお願いします。

【事務局北口】その他に関しては特にありません。

時間がありますので、補足説明いたします。アンケート調査結果の40ページをご覧ください。問23「現在あなたは幸せですか」という設問があります。「とても幸せ」「幸せ」「まあまあ幸せ」という方を合わせると90.7%ということです。「とても幸せ」と30歳代男性で30%、30歳代女性では35.4%ということで、何が原因かわかりませんが、30代は幸福感が高いようです。結婚されて子どもに恵まれる世代ということもあるかもしれません。特徴的な結果だと思います。

111ページから112ページにかけて、「各種がん検診や健康診断を受けておられますか」という設問がありますが、芦屋市については市が実施しているがん検診の受診率がとても低いということで、いろいろ対策をたてて向上に努めております。このアンケート結果を見ますと、国の目標の50%には達していませんが、割と高い値がでています。市の保健センターや人間ドックで受けた方も多いですし、その他にもご自分から医療機関で受けたという方も多くなっております。市が実施する検診にはあまり参加されないけれど、実際には多くの方が検診を受けられているということがわかります。芦屋市ではがん検診の受診率が低く、遅れているというような受け取りかたをしておりましたが、この結果を見て、多くの方が検診を受けられているということがわかりました。

【立花委員長】前回の回収率というのはどのくらいでしたか。

【立花委員長】前回の回収率は46.0%です。

【事務局瀬戸山】健診の話がでましたが、114ページで「最近3年間、検査を受けていない」というところに印をつけた方にお尋ねしますということで、受診していない理由は、「忙しいから」と「めんどうだから」を合わせて50%です。半数の方は時間が無いということかと思えます。これを年代別にすると、やはり働き盛りの方は時間がなく受診しにくいですが、特に会社勤めの方は職場で強制的に検診を受けているので、男性の方は受診率が高くなっています。他には「健康だから受診する必要はないと思うから」「悪い結果を言われるのが嫌だから」という方もおられます。そういう方の受診行動をどうやって引き上げていくのが大切だと思っています。面倒に感じて、忙しくても受けやすくする体制をつくるという必要があります。地域の中で検診を受けて病気が見つかったという方とも交流していくと、「受けてみよう」という気になるかもしれませんので、そのような話題も広げていただくとよいと思えます。

また、86ページの歯科のところ、「お口と全身の健康について、あなたが知っていることはどれですか」という設問がありますが、多い回答は、「喫煙は歯周病にかかりやすく、歯周病を悪化させる」とか「糖尿病だと歯周病にもかかりやすい」とか「口が不潔になると、誤嚥性肺炎を引き起こしやすくなる」ということで、30数%の方が、歯の衛生が健康に悪影響を及ぼすということをご存じでした。年代別、性別で詳しく見てみますと、男性50歳代で44.3%、60歳代で43.15%の方が「糖尿病だと歯周病にもかかりやすい」ということをご存じでした。女性50歳代では43.5%、60歳代では42.1%の方がご存じでした。誤嚥性肺炎に関しては、60歳代の女性の方は41.4%をご存じでした。妊娠中のことと、妊娠出産している女性の30歳代から60歳代の方が知っておられるということでした。96ページから97ページに「かかりつけの医師や歯科医師、薬局がありますか」という設問があります。芦屋市は市内にこれらの施設が多いと思いかと思えますが、かかりつけ医がいる方が71.7%、歯科医がいる方は71.3%です。年代別では70歳代の方は特に8割、9割の方がかかりつけ医をお持ちです。男性では50歳代の65.9%の方が、かかりつけ医をお持ちです。特に女性の50歳代、60歳代の方でかかりつけ医をお持ちの方の割合が高くなっています。歯科医についても、60歳代、70歳代になりますと、80%を超えるほど割合が高くなり、トラブルが起きる年代であることがうかがえます。98ページにはかかりつけ薬局についての設問がありますが、かかりつけ薬局をお持ちの方は38.4%ということです。これはかかりつけ医の半分くらいの割合になっていますが、徐々にかかりつけ薬局を持つ方も増えていく傾向にあります。99ページに「次のうち、どんな病気や予防法に関心がありますか」という設問がありますが、やはり死亡率が一番高いがんの予防法がトップで48.5%です。認知症の予防法を知りたいという方が39.4%、脳卒中の予防法は37%、高血圧、心筋梗塞と続いております。101ページで、それを年代別に見ていきますと、特に認知症については、女性50歳代の47.8%、60歳代52.1%、70歳代で42.3%の方が予防したいと回答しておられます。また、心の病気、うつ病などに関しては、女性20歳代の47.5%、30歳代36.4%、40歳代34%の方は、予防法を知りたいと回答しています。

【里村委員】出前講座をしています。関心が高ければ参加していただけるかと思えますが、状況はいかがですか。

【事務局田中】生涯学習課の実施している出前講座の中でも希望は健康に関すること多いと聞いております。

【事務局瀬戸山】102ページに「メタボリックシンドローム，運動機能症候群を知っていますか」という設問がありますが，最近，出前講座で女性が多いときには，どんな運動をしたらよいのかという実践も含めて，取り上げています。メタボリックシンドロームは，介護保険の利用の整形外科的な疾患の中で一番に挙がっています。生活習慣病要素の三疾患と合わせて，整形外科的な疾患についても触れています。

【里村委員】先日高齢者のつどいがありましたが，介護予防センターに来られているさくら会の方が，先生のご指導の下でエクササイズをしておられたので，見学させていただきました。「川の流れるように」ともう1曲でした。からだを動かし健康で長生きするという意味では，介護予防も役立てたらよいと思います。市民もただ自分たちだけで消化していくのではなく，発表の場や交流の場があって，なかなかよいと感じました。

【溝井委員】例えば西宮市などの他市のアンケート結果と比較をされたことはありますか。節目検診のシステムも違うようですが，検診が無料であれば受診率も上がります。検診を受けやすいシステムを考えるとというような前向きな取り組みを行っていたらと，結果が変わってくると思います。誤嚥性肺炎やワクチンに関するデータがでていますので，その推移だけではなく，システムについても市で前向きに考えていただけたらよいと思います。幼稚園から中学生までの子どもたちの医療費を無料化するのはお金がかかりますので，予算的な問題もあり一概に言えませんが，ご検討願いたいと思います。すこやか親子ではとても多くの団体が活動されていますが，もう少しまとまって，同じような取り組みが重複しないように，市で取り組みを調整いただければ，予算的な余裕もうまれるかもしれません。勝手なことを申し上げましたが，よろしく願いいたします。

【事務局北口】おっしゃるとおりだと感じています。できる限り進めていきたいと考えております。

【岡野委員】時々，開業医の中でメディカルフィットネスを病院の中に併設されている方がおられます。例えば通院されている高齢者の方が診断を受けたときに，別にジムに行くということは時間的にも大変ですが，病院内に施設をつくれれば，受診の際に利用することができ，効果的だと思います。芦屋市でも，そのような施設があればよいと思います。

【事務局北口】そのような効果はあると思いますが，芦屋市で，となると芦屋病院しかありません。病院も独立採算で経営しておりますので，採算がとれるかという見きわめも必要だと思います。高齢者の方については，ここの2階で行っていますので，多くの方が来られています。進めていくべきことだと認識していますが，施設整備となると財政的な問題もありますので難しいかと思います。

【岡野委員】税制面はよくわかりませんが，糖尿病食も提供していただけたら助かると思います。

【事務局北口】食事に関しても，市で講習などをしてはいますが，調理はご本人にお願いするかたちになります。市がすべきことなのか，民間がすべきことなのかわかりませんが，民間で行う際には利益がでるかという大きな問題があります。

【野田副委員長】3ページの現行計画についての達成状況のところで，(4)思春期保健対策

の充実のところ、平成24年の調査が2だと国になっています。すこやか親子21の中間報告になっていますが、芦屋では調査できなかったということですか。20年度には調査できたというお話だったように思いますが。

【事務局】20年度も国の調査結果です。芦屋では調査できていないということです。

【野田副委員長】このアンケートのかたちからすると、中高校生のところは、私たち栄養士の力が及ばないところかと思いますが、ここが一番重要なところでもあると思います。調査できる方法はないでしょうか。今は幼児や高齢者には機会が多いのですが、中高校生には調査も指導も難しいと感じます。難しくても調査ができるようにしなければ、そこだけが抜けてしまうので、何らかの対策をしていかなければいけません。これは20歳からのアンケートになるのですが、アンケートの中で親御さんが子どもさんに聞くということもできます。芦屋の現状に見合った対策につなげていけたらよいと思います。栄養士としても指導しなければいけないところだと感じています。

【上坂委員】ここに薬物乱用の問題がありますが、小学校には薬物の講演を続けていて、薬剤師や保健師さんが回られています。その延長として対策をたてることはできないのでしょうか。

【野田副委員長】この問題に力をいれてほしいと感じます。一時期、盛んになりましたが、継続していません。市民の方にも意識していただけたら可能になると思います。

【上坂委員】学校の方針というより、校長先生のお考えによって、断られる場合もあります。

【事務局瀬戸山】2000年に、すこやか親子の計画をたてようとしたときに、教育委員会の校長会に話をもっていきました。喫煙率等を調べたいということをお願いしましたが、出てきては困る数値なので、なかなか難しかったという記憶があります。

【野田副委員長】そういう事情があるのですね。

【里村委員】中学や高校には保健体育の教科がありますが、その中で喫煙の害等に関する教育というものはされていますか。

【北野委員】当然、教育としてなされていますが、それについて書かせることはしていません。アンケートをとって割合として出すということは、基本的にはないという前提でしていかなければいけません。今年は何%だった、というように、出した値を追っていくことが教育的ではないということです。あくまでもゼロを目指してやっていて、数字が出てはいけないというのが基本的な考え方です。

【津村委員】それぞれの役割というものがあると思います。地域の中で見守るということは、家庭を含めてそのような取り組みを行うということです。地域の中で子どもさんをお持ちの方に「あなたの子どもさんはタバコを吸いますか」と聞いても回答は得られないと思います。それはダメだということをご存じです。そういう地域社会の中での見守りという取り組みをどうするのか、ということであれば有効かと思います。確かに小中学生という育ちざかりの子どもたちへの影響は大きいと思います。教育委員会として担わなければいけない役割と、地域や家庭で担うべき役割があると思います。この計画の中で、学校教育の範疇にまで踏み込むということは課題が残ると思います。

【波多野委員】食育に関して、アンケートを見ていて気がついたのですが、食育という言葉を知っている人の割合も減っていますし、関心があるという人の割合も減っています。問19、20、21です。問21の食品の安全性についての知識を問う設問でも、これだけ関心が高まっているのに、前回調査より割合が下がっています。

そのような状況ですが、ヒヤリングシートの食育推進計画の評価ではAが並んでいます。このあたりに、今回のアンケートでの課題がでているように思います。具体的な取り組み内容、事業名という部分とマッチしていないということで、このような啓発活動等をどのようにしていくのかということまで考えていく必要があるのではないのでしょうか。今後、アンケート結果を踏まえ、具体的な策定をしていくときに、どのように切り込んでいけるのかということ意識しながら見守りたいというのが私の感想です。

【事務局北口】食育に関してはみなさん関心が高く、数値がもう少し上がると思っていました。

【野田副委員長】回答されている方の年齢が高いということがあるかもしれません。食育というものは、幼児や高齢者ではよくなされていますので、今回回答された30歳、40歳の方のデータがこの中に入っていることが一因かもしれません。

【波多野委員】今回のアンケートは70代の方の回答が多かったのではないですか。

【津村委員】関心が高いのは、子どもに対する食育をする世代だと思います。

【立花委員長】前回と今回の回答者の平均年齢はどのようになっているのでしょうか。

【事務局瀬戸山】35ページの「食育という言葉を知っていますか」という設問に関しては、やはり子育て世代の方が高い関心を持っていて、40歳代の女性では79.2%です。高齢者の方は結構ご存じありません。言葉は知っていても、意味を知らなかったり、言葉も意味も知らなかったりと回答されています。24年度については前計画が今年度末までですが、それを踏まえて、食育に対してどのようなことをしているのか、ということホームページの食育コーナーに載せていく予定です。まだできていませんので、それを完成させ、今やっていること、今後やることを、だれでも見やすくすることが大切です。参加できなかった方にもホームページを見ていただければ、細かなレシピまでわかるというような工夫をお願いしたいと思います。食育というものは、まだやっていることが一部の方にしか理解していただけないという現状がありますので、より多くの方に見ていただくということは大切だと思います。

【立花委員長】残り時間が短くなってきましたが、事務局から今後のスケジュール等に関して何かありますか。

【事務局北口】今後は、今出ている課題の整理をさせていただき、次期の計画の骨子をつくるという作業に入りたいと思っております。それについては策定委員会でまたご意見をいただくということです。次回の会議は8月28日火曜日13時半からを予定しております。

【立花委員長】他にありませんか。

では、第2回健康増進・食育推進計画策定委員会を終了します。活発なご意見をありがとうございました。

<閉会>